

# 母親が変われば社会が変わる!

母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみです

## 母親大会のはじまり

### ―「日本婦人の訴え」から 「世界母親大会開催へ」

1954年、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ3度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうさんら6人は全世界にむけ「水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。

それに先立ち6月、第1回日本母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭鉱や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会には河崎なつさんを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

## 母親大会のあゆみ

### ―くらし・平和を守ってたくさんの 母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親運動が広がりました。そして母親・女性たちの願いをかけた、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成など教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子をとりにくくさまざまな問題にとりくみ、貴重な成果をあげながら、60年余をあゆみつづけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命(いのち)を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

## 初めて開催される、 南国土佐・高知に あつまりましょう

第64回日本母親大会は、高知県高知市で開催されます。1日目は47都道府県からの参加者が一堂に集まる全体会で、記念講演の講師は渡辺治さんです。2日目は「子どもと教育」、「くらし、権利、労働」、「平和と民主主義」、「女性の地位向上めざして」など、さまざまな問題をテーマに分かれて話し合う分科会です。

「核戦争から子どもを守ろう」との母親たちの熱い願いから始まった母親大会はだれでも参加できる大会です。格差と貧困のひろがる厳しい情勢のときだからこそ、母親大会に集い、明るい未来をきりひらく力にしていきましょう。高知県で初めて開催される第64回日本母親大会に、切実な要求・願いをかがげて行動し、ひとりで悩んでいる人にも声をかけ、北から南から、世代をこえてさそいあい、よびかけあってあつまりましょう。